

事務事業名	選挙管理委員会運営事業				担当	総務部 監査・選管 選挙管理委員会	
政策名	H	施策体系外			電話番号	0285-83-8190(内線3201)	
施策名	1	施策体系外の事業			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠	地方自治法・公職選挙法・市条例					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和29年度~)	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	4選挙費	4選挙費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度( 年度~ 年度)		
事業概要	選挙管理委員会の委員は、議会の議員による選挙によって選ばれた委員4名により構成され、委員長は委員の中から互選されます。また、委員に欠員が生じたときに備えて、補充員4名も選ばれています。委員の任期は4年で、委員会は市長選挙、市議会議員選挙に関する事務を管理し、また、法令によってその権限とされた、その他の選挙に関する事務を行い、その選挙人名簿の作成・管理をします。委員会の招集は、告知及び告示により行います。通常委員会は、定時登録時及び議案が生じたときに招集します。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 25年度実績 定時登録時の委員会の開催。真岡市長選挙、真岡市議会議員補欠選挙、参議院議員通常選挙時の開催。鬼怒川東部土地改良区総代選挙時の開催。  26年度計画 定時登録時の委員会の開催。農業委員会委員選挙時の開催。長沼西部土地改良区、真岡土地改良区総代選挙時の開催。		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移						
		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア:開催数	回	12	11	17	15	15
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 選挙管理委員会		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移						
		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア:委員数	人	4	4	4	4	4
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 選挙管理委員会の適正な運営		⑦ 成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移						
		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア:適正に運営された委員会の割合	%	100	100	100	100	100
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
④ 結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 各選挙の正確かつ迅速な執行		⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移						
		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア:適正に執行された選挙の割合	%	100	100	100	100	100
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
	一般財源	千円	765	758	617	769		
	事業費計(A)	千円	765	758	617	769		
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	260	213	300	260	
		人件費計(B)	千円	1,110	904	1,261	1,057	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,875	1,662	1,878	1,826		

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か? いったいどんな経緯で開始されたのか?	地方自治法、公職選挙法、市条例の規定により設置された。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	定時登録については、従前は毎年1回9月のみに行われていたが、選挙人の転入・転出の時期によっては長期にわたり、いずれの市町村の選挙人名簿にも登録されなかったため、平成9年12月に改正され、現在の毎年4回の登録回数となった。平成15年6月の法改正により、在外選挙制度の改正及び期日前投票制度が創設された。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 適正な選挙の執行
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 地方自治法、公職選挙法の規定により、市が設置しなければならない。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 委員会の適正な運営であるので、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 法律に定められている事業の執行であるため、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 委員会の設置が法律に定められている。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費は委員報酬がほとんどであり、必要最小限の額であるため、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 人件費は委員会開催時のみの経費であり、必要最小限の額であるため、削減余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							